

これは勤務なのだ、と思うことにした。朝、今までと同じ時間に家を出て勤務先に向かう。別にそんなに早くする必要などないのだが、通勤ラッシュを避けるためなのと、どうせしなきゃならないのなら早いうちにやっつけてしまいたくなる性格による。

職場である実家に着くと、ラジオのスイッチを入れる。テレビはどうせ見ないので、撤去してしまった。しばらく一日の仕事のシミュレーションをし、おおよそ定まったら仕事開始である。業務内容はかたづけ。遺品整理と言えなくもないが、不用品の廃棄処理と何ら選ぶところはない。今日はここからここまで、と思い定めた場所のそれを片っ端から袋に詰め、紐をかけ、解体していく。ある程度たまったら玄関先に並べ、車に積み込む。車一台がやつとの狭い道路での作業のため、素早く積み込まなければならぬ。ペピーカーを伴った近所の若いお母さんが脇を通る。散歩の時間とおぼしく、連日同じような状態であいさつを交わす。こやかにしているが、視線の先に積載前の不用品の山があるので、今日もやっつて、と思われているのだろうなあと思う。もう少し親しくなったら、まだ当分続くのだと教えてやろう。

積めるだけ積むと、処理場に向かう。午前中は、トラックに混じって、ぼくと同じような乗用車での搬入も多い。ちよつとしたラッシュだ。あの車は前も見かけたぞ。ひよつとするとぼくと同じ職務ではないだろうか。

「あなたも実家のかたづけですか。」

話しかけたくなる。

ここからは空想である。

「そうなんですよ。あなたも。いやあ、大変ですなあ。よくこんなに取つてあつたと呆れるやら、うんざりするやら。」

「まったくです。銀行や新聞の粗品タオルだけでも、ナイロン袋に入ったままのが後から後から出てくるんです。もう何十年も前の会社名だったりして。」

「紙袋も、紐も、下着やら服やら、ここまで捨てることに抵抗するつてのは、一種の信仰、マインドコントロールつてやつですかね。」

ゲートをくぐるまでの一人遊びだ。

半世紀の保管を経た物たちも、捨てるときは一瞬だ。家では大きな顔をしていても、巨大なコンベアのみ込まれるとすつかり萎縮してしまっている。捨てただけ実家の空間が広がっているはず。どんなにわずかだろうと、それがぼくの労働の対価である。

專業ババ奮闘記 (その2) 46

木幡智恵美

パバルウ星人 (2)

寛大が「ウルトラマン」と言い出したのは、娘の同僚一家宅にお邪魔してからだ。同僚の連れ合いが、「日曜日の朝早く、テレビでウルトラマンやつてるよ」と言ったのだ。そうだ。娘の家のテレビでは映らないからと、うちで毎週録画するようになった。それから、寛大は我が家に来るなり、「ウルトラマン見る」と言つてテレビの前に座るようになった。

ウルトラマンは、我が長男が一時期はまり、歴代ウルトラマンやら怪獣やらのフィギュアをいくつも買わされた。夏は虫、冬は年ごとに興味の対象が飛行機、鳥と変わり、ある冬はウルトラマンにのめりこんだ。ウルトラマンや怪獣のフィギュアをねだり、ビデオを借りてきては何度も繰り返して見、本を買つては破れるまでページをめくり、寝ても覚めてもウルトラマンの日々。フィギュアは、模様が薄れ、片腕がもげているものもあるが、ほとんどは原型をとどめている。本も、使い古した辞書のようになっているものの、読めなくはない。

寛大に、取つておいたフィギュアと本を出してやると大喜び。録画した番組は、もちろん昔のとは全く違う新たなウルトラマンになっている。でも、怪獣は昔と同じのが結構出てくる。怪獣が出てくると、「ババ、読んで」と本を持つてきて、その怪獣の説明を読まれた。字が小さくて読めないの、虫メガネを持つてきて読んでやる。そのうち、本と虫メガネをセットで持つてくるようになった。寛大の影響を受けて、実歩までが怪獣を並べて遊ぶようになり、本と虫メガネを持つてきて、「ババ読んで」という始末。ウルトラマンや怪獣のフィギュアを並べて遊ぶ姿を見ると、三十年近く昔の長男が浮かび上がってくる。穏やかなところといい、寛大はどこかしら長男に似ている。

ウルトラマンで遊んでくれるのはいいが、度々名前を聞いてきて本を読まされるのは閉口した。ウルトラマンと帰つてきたウルトラマンはぼつと見で分らない。怪獣は、ダダやカネゴン、ピグモンやバルタン星人など特徴的なものは分かるが、他はちんぷんかんぷん。その都度本で調べるのが面倒になり、マジックでフィギュアの脚の裏に名前を書くようにした。ベムラー、ベムスターなどなど。

30代フリーター やあ、ジイさん。バイデン政権は前政権の対北朝鮮政策を見直して「北朝鮮に対価を与えながら、段階的に非核化を目指す形に転換するとみられる」と報じられている（5月2日朝日新聞朝刊）。

年金生活者 完全な非核化はたとえ金正恩が確約したとしても、イラクのように軍事占領でもしない限り検証のしようがない。バイデンが狙っているのは北朝鮮との事実上の核の共同管理だ。

それは「戦略的忍耐」の名のもとに北朝鮮の核を事実上「野放し」にしたオバマ政権の方針より朝鮮半島の緊張緩和に寄与するはずだ。その路線の地ならしをしたのがトランプだ。

経済制裁を科して北朝鮮が非核化に踏み出すのを待ただけだったオバマ政権とは対照的に、トランプは金正恩と直取引をして「即時完全な非核化」を目指した。急ぎ過ぎてその後の交渉は停滞したが、米朝首脳の間合意は事実上の朝鮮戦争終結宣言に等しく、バ

もうひとつの課題は、今後も起こり得るパンデミックへの対処だ。アメリカが長期にわたって苦しんだ新型コロナウイルスを中国は比較的早く抑え込み、曲がりなりとはいえひとつのモデルを示した。

民主制より独裁制が優れていると受け取られることへの危機感が「就任後100日で1億回分の新型コロナウイルスワクチンの接種を約束したが、100日間での接種は2億2000万回以上にのぼるだろう」という実績を誇示する演説となってあらわれている。「医療権力」と呼び得るほど強大化した現在、それをコントロールし得た「政治権力」の勝利宣言でもある。

30代 さらにもうひとつは？

年金 G A F A などプラットフォームが「サイバー権力」と化した現実はどう対処するか。中国は国内を拠点とするプラットフォームのインフラを乗っ取って、世界初のデジタル通貨「デジタル人民元」の導入をもくろ

バイデン政権の目指す北朝鮮政策を可能にする条件のひとつを用意した。

「対価を与えながら、段階的に非核化を目指す」やり方は長期にわたることが目に見えており、「完全な非核化」の見通しは立てようがない。しかし、その交渉自体が北朝鮮の核をコントロールする機能を持つ。

30代 それだとアメリカは北朝鮮を核保有国と認めることになり、核不拡散条約に反するだろう。

年金 米国防総省の高官が朝日新聞のインタビューに答えて核兵器予算の削減を示唆したと報じられている（4月10日朝刊）。また国務省の高官は核兵器禁止条約について「正しい道だとは考えないが、目標が同じなので理解はできる」とインタビューに答えている（同）。

このことから推定できるのは、世界の核の管理の仕方を定めた核不拡散条約の不平等性をアメリカ自身が認めているということだ。その不平等性が北朝鮮の核開発を誘うなど、核をめぐる

んでいる。マルクス・ガブリエルはプラットフォームを「新しい全体主義」と呼んでおり、これに中国の「古い全体主義」が覆いかぶさる未来が見え始めている。

それに対抗するバイデンの演説は「数十年前、アメリカはGDPの2%を研究開発に投資していたが、いまは1%にも満たない。中国やほかの国々が急速に差を縮めている」と危機感をあらわにし、「私たちは、先端的な電

情勢を不安定にしていることを懸念し、だから北朝鮮とも現実合った交渉を進めるしかない」と判断していると推察される。

30代 バイデンは初の施政方針演説で、中国との競争に勝つとの決意を示した、と報じられている（4月30日朝日新聞朝刊）。

年金 中国に勝たなければ、アメリカの直面する課題を解決できないという前任のトランプの問題意識を引きついで演説となった。

中国のからむ課題はおもに3つあり、いずれも台頭の著しい3種の権力の問題として存在している。そのひとつは世界に緊張をもたらしている「地域権力」としての中国にどう対抗するかだ。バイデンは演説で「私は習主席に、ヨーロッパでわれわれがNATOを通じて行っていることと同じように、インド太平洋においても紛争を防ぐために強力な軍事的プレゼンスを維持することを伝えた」と強調している。

池やバイオテクノロジー、コンピューターチップ、クリーンエネルギーといった将来のための製品や技術を開発させ、優位に立たなければならぬ」と、ITの基盤となるハードな技術の開発を目指すことを宣言している。

30代 中国への厳しい姿勢にくらべると、北朝鮮に甘いんじゃないか。

年金 北朝鮮は小国だからというだけでなく、この国にアメを与えてアメリカ寄りにすれば、隣接する中国は南側の防波堤を失うから、アメリカに決定的に有利になる。それを長期的には狙っているのだろう。

30代 その中国に対して「安全保障上の強い懸念」を表明する外交青書を日本の外務省は出した。

年金 アメリカや欧州諸国が中国への締めつけ強めるなかで、尖閣諸島の領有権を主張する中国に対し「習近平みんで吠えればコワくない」とばかり、恐るおそる非難を強める、理念なき日本外交の姿をそこに見ることができる。

ニュース日記 783
中村 礼治

バイデンの アジア外交